

第95回関西学生対校陸上競技大会

2018年4月19日(ロード)長居、5月10日~13日(T&F)西京極

男子対校得点

順位 大学名	1位 大阪大	2位 大阪国際大	3位 びわ学大	10位 神戸大
総合	119	87	78.5	34
トラック	66	37	61	23
フィールド	41	50	17.5	7
混成	12	0	0	4

女子対校得点

順位 大学名	1位 立命館大	2位 園田女大	3位 武庫女大	12位 神戸大
総合	147	82.5	75	20.5
トラック	98	44	12	3
フィールド	35	35.5	56	17.5
混成	14	3	7	0

<男子>

種目	順	氏名(学年)	R	記録(風)	備考			
100m	7	喜多政天(2)	決	10" 70 (+0.2)	自己新 歴代5位			
			準	10" 69 (+0.6)				
			予	10" 68 (+2.5)				
		近藤佑哉(4)	準	10" 93 (+0.2)	自己新 歴代6位			
			予	10" 70 (+1.9)				
			予	11" 73 (+0.3)				
200m		喜多政天(2)	準	22" 41 (-1.8)	自己新 関カレA			
			予	21" 94 (+0.8)				
			予	22" 15 (-0.5)				
400m		高柳正徳(3)	予	49" 58				
			800m	5	植田悠貴(M2)	決	1' 54" 41	
						準	1' 53" 84	
予	1' 53" 90							
		南部慎(3)	準	1' 57" 25				
			予	1' 55" 76				
			予	2' 01" 91				
1500m	4	藤田竣也(M1)	決	3' 59" 78	自己新 西カレB 歴代7位			
			予	4' 02" 18				
			予	3' 59" 26				
		桂翔太(4)	決	4' 19" 77	自己新			
			予	4' 08" 24				
			予	3' 59" 26				
5000m		松井悠真(2)	決	15' 44" 88	自己新			
			決			DNS		
10000m		桂翔太(4)	決	32' 16" 80				
			決	32' 39" 56				
ハーフ マラソ ン	8	平井大誠(3)	決	1' 10' 28				
			決	1' 12' 56				
			決	1' 16" 43				
110mH		藤原雅志(M1)	準	15" 18 (+1.4)				
			予	14" 81 (+2.1)				
			準	15" 34 (-0.7)				
		山口大地(3)	準	15" 34 (-0.7)				
			予	15" 03 (+3.9)				

種目	順	氏名(学年)	R	記録(風)	備考
400mH	7	藤原雅志(M1)	決	54" 31	
			予	54" 37	
			予	54" 33	
		清水和輝(M1)	予	54" 33	
			予	55" 17	
			予	55" 17	
3000mSC	2	藤田竣也(M1)	決	9' 12" 06	
10000mW		若江亮平(1)	決	53' 45" 53	大学初
4×100mR	7	金丸(4)喜多(2) 近藤(4)高柳(3)	決	41" 69	
			予	41" 40	
			予	41" 40	
4×400mR		小山(4)高柳(3) 伊藤(3)竹島(4)	予	3' 17" 99	
			予	3' 17" 99	
走高跳		小西満(3)	決	1m 85	
棒高跳		早川雄己(M1)	決	3m 80	自己ベストタイ
走幅跳		木原日向(4)	決	3m 86 (+3.0)	
三段跳		神田実(3)	決	14m 67 (+1.0)	
砲丸投	8	西村拓海(4)	決	12m 08	自己新 関カレA
			決	11m 66	
			決	11m 47	
円盤投	3	上野環太(M1)	決	39m 63	
			決	34m 01	
			決	33m 35	
やり投		太田康介(4)	決	49m 41	
			決	48m 42	
十種競技	5	金澤佳緯(3)	決	5616点	自己新 [100m]11"40(+2.8) [110mH]16"45(+0.7) [走幅跳]6m48(+2.2) [円盤投]23m89 [砲丸投]9m14 [棒高跳]3m40 [走高跳]1m70 [やり投]36m54 [400m]53"90 [1500m]4'45"07
			決		
			決		
			決		
			決		
			決		
		上野環太(4)	決		DNS

【主将 近藤佑哉】

当初の目標は、男子総合1部昇格、女子総合30点獲得でした。しかし、春の時点でチームの力がそこに大きく達していなかったため、目標を男子総合5位、女子総合20点獲得に軌道修正し臨みました。結果としては男子については10位34点で大きく目標には届きませんでした。女子は20.5点を獲得し目標を達成しました。このような結果になってしまった理由としては、やはりチーム全体の實力不足が原因です。そもそも、関西インカレに出場できる人数が少なくランキング上位に位置する選手が数名しかいませんでした。このような状況にならないためにもこの一年、チームのメンバー各々が目標を設定し、さらに定期的に自己分析をする事で實力を伸ば

すよう指導してきました。それに加えて、3月から関西インカレまでにチーム全体でのベスト更新の数を定め、関西インカレに出場しない人も一丸となってそこに挑めるチームの雰囲気作りをしました。しかし、大変残念な結果に終わってしまったことは重く受け止めなければなりません。今後、確実に関西インカレで入賞できる選手を育成するとともに、各種目で上限の3人が出場できる状況を作っていかなければ、男子1部昇格という目標は見てきません。今の実力から、来年いきなり1部に昇格するのは厳しいことだと思います。例えその目標が叶わなくとも、何か兆しが見えるチームを後輩には作ってほしいです。

〈女子〉

種目	順位	氏名(学年)	R	記録(風)	備考
1500m		仲野由佳梨(2)	予	4' 50" 76	
100mH		和三はるか(1)	予		DNS
400mH		野口ひかり(2)	予		DNS
10000mW	6	福田菜月(3)	決	★51'25"55	自己新 学内新 日本選手権参加標準
4×100mR		末廣(4)武村(3) 岩倉(2)和三(1)	予	50" 18	

種目	順位	氏名(学年)	R	記録(風)	備考
4×400mR		佐長(2)荻野(2) 宮崎(2)野口(1)	予	4' 14" 99	
走高跳	6T	日高水樹(3)	決	1m 65	
走幅跳	6	武村明香(3)	決	5m 65 (-0.5)	
		末廣真子(4)	決	5m 39 (+1.0)	
三段跳	2	武村明香(3)	決	★12m 67 (+1.9)	大会新 自己新 学内新

【女子主将 末廣真子】

女子としては今年は、女子総合20点獲得、関カレ終了までに自己ベスト、大学ベスト合わせて15個更新という2つの目標を立ててやって参りました。結果としては総合20.5点、ベスト合計13個と、得点の目標は達成できたものの、ベストの個数達成は成りませんでした。目標を達成してほしいという思いで春合宿で得点の目標のレベルを下げることにしましたが、元々分析では12点しか取れない予想だったので、部員たちは本当によく頑張ってくれて上乗せをしてくれたと思います。今回達成できたことを励みに、また来年の関西インカレに向けて1年間頑張ってくれるはずですよ。2本目の目標である、自己ベスト、大学ベストの更新と言うのは全員がそこに向かって頑張ることができる目標であり、関西インカレに出る出ないに関わらず、女子チーム一丸となってそこに向かって頑張ることができました。ベストの更新は部全体の勢いをつけることにも繋がり、これからは女子一丸となって戦って行ってほしいと思います。これからは武村にバトンタッチします。競技力もあり、全体を見る力もある武村ですので、きっとより一層良い女子チームになることと思います。最後になりましたが、ロードも含め5日間、最終日はかなりの悪天候になったにも関わらず、応援に駆けつけてくださったOB・OGの方々、本当にありがとうございました。これからも部員一同、より一層頑張る参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

入賞者コメント

【3000mSC 2位 1500m 4位 藤田竣也(M1)】

1500mと3000mSCに出場しました。1500mは4位とわずかに表彰台を逃す結果となりました。前半、集団についていけなかったこと、ラストの100mの切り替えが課題だと感じました。今後はスピードを磨いて勝負強さを身につけます。3000mSCは事前の構想では、序盤は集団につけて中盤に抜け出して優勝を狙う予定でした。しかし、接触があり先頭集団から離れてしまったことで予定変更を余儀なくされ、結果2位に終わってしまいました。2年前に優勝したときと逆のパターンで負けてしまったことに、非常に悔いが残っています。今回は悔しい結果に終わってしまいましたが、本来の実力はこんなものではないと思っています。

す。今後は日本ICの標準を切ることを目標に頑張っていきます。皆さん応援ありがとうございました。



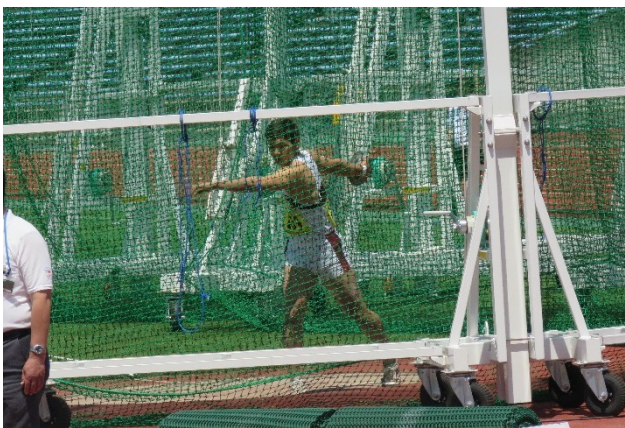
【三段跳 2位(大会新) 走幅跳 6位 武村明香(3)】

4×100mR、走幅跳、三段跳に出場させて頂き、走幅跳6位、三段跳2位に入賞させて頂きました。暑い中又豪雨の中、応援サポートして下さい本当にありがとうございました！大会前の目標は達成できましたが、勝ちきれず悔しさの多い試合となりました。今回の悔しさをバネにさらに上を目指して頑張っていきます！



【円盤投 3位 上野環太(M1)】

砲丸投、円盤投、やり投に出場させて頂きました。どの種目も自己ベストには届かず、不甲斐ない結果で申し訳ありませんでした。円盤投は3位入賞しましたが、1位とは僅差で負けており、自分の勝負弱さと実力不足を感じました。今後は気持ちを切り替えて、全カレB標準を切れるように練習に励んでいきます。応援、サポートしていただいた部員の方々、OBOGの皆さまありがとうございました。



【800m 5位 植田悠貴(M2)】

いつもお世話になっております。M2の植田です。今年は6年間の集大成となる最後の関西インカレでした。しかし、800mで4連覇、大会記録更新を皆様に期待して頂いたにも関わらず、非常に不甲斐ない走りをしてしまいました。これも私の実力不足が招いたものだ

と真摯に受け止めております。私には来年リベンジする機会もありません。残り僅かな陸上競技人生を悔いなく終われるように、全日本インカレに向けて、気持ちを切り替えて精進していきたく思います。末筆となりましたが、応援に駆けつけてくださいましたOBOGの皆様ありがとうございました。



【十種競技 5位 金澤佳緯(3)】

タイトなスケジュールの中、なんとか食らいついて得点分析を上回る順位を残すことができたことは個人的には満足しています。ただ、上位入賞者との力の差も感じたため、来年の関カレではそれをひっくり返せるようにまた練習していきます。



【走高跳 6位 日高水樹(3)】

たくさんの応援本当にありがとうございました。今年是不甲斐ない結果だったので出直します！！来年頑張ります！



【10000mW 6位 福田菜月(3)】

10000mW に出場させていただきました。土砂降りの悪天候の中での応援ありがとうございました。昨年の関カレでの自己ベストを大幅更新し、レベルが上がった中でも6位でゴールすることができました。六アイで行われる日本選手権の標準を突破することもできました。個人選手権や全カレが少しずつではありますが見えて来たので、ここで満足することなく、また一から頑張ります。



【400mH 7位 藤原雅志(M1)】

このたびは応援やサポートをして下さり、誠にありがとうございました。2種目に出場し、110mHは準決勝敗退だったものの400mHでは決勝に進出することができました。しかし、実力ではなく運で決勝に進出したため、そこでは勝負できず7位という結果に終わりました。より上位に入り、神戸大学陸上競技部の力になりたいと思っております。そのために一層努力してまいりますのでこれからもよろしくお願いいたします。



【100m 7位 4×100mR(2走) 7位 喜多政天(2)】

今回の関西インカレでは、今の自分の力は100%出し切れたのではないかと思います。ただこの結果に満足しているわけではないので来年はさらなる活躍をして神戸大学の名を轟かせたいです。



【4×100mR 7位 金丸 - 喜多 - 近藤 - 高柳】

【1走 金丸(4)】

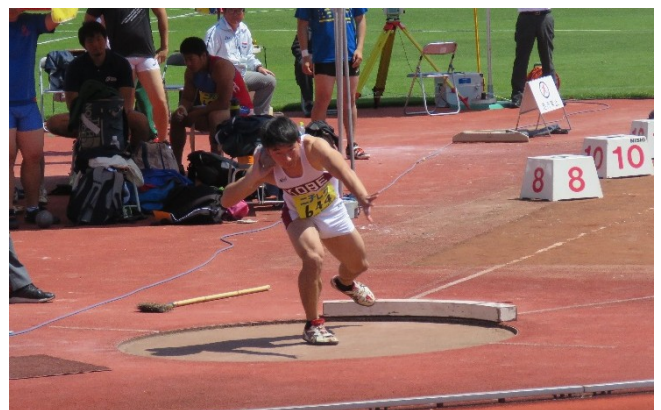
4継子選と決勝、2本走れて楽しかったです。

【3走 近藤(4)】

100m、200m、4×100mRに出場させていただきました。個人種目に関しましては、昨年よりもレベルが上がりましたが、自分の実力を出し切れていれば入賞できただけに悔しいです。リレーは2年連続で決勝に進出することができました。しかし、バトンミスがあり7位に終わってしまいました。僕は来年、院に進学した後も陸上競技部を続けるので、次の関西インカレでは全種目上位入賞を目指します。応援ありがとうございました。

【4走 高柳(3)】

400mはあと少しで決勝進出というところで逃してしまいました。来年は少なくとも決勝進出します。応援ありがとうございました。4×100mについては予選ではチームベストが出たので良かったです。決勝ではバトンミスをしてしまったのが残念でした。今シーズン40秒台を目指していきます。4×400mRは予選敗退という結果に終わってしまいました。更に強いチームになって、戦っていきます。



【砲丸投 8位 西村拓海(4)】

砲丸投に出場させていただきました。ずっとメインの種目である幅跳びの練習をしており、関西インカレの

3週間前から砲丸にシフトしました。短い準備期間でしたが、その中で自己ベストも大幅に更新して8位に入賞することができたのは素直を喜びたいと思います。とても楽しい試合をすることができました。応援ありがとうございました。

【ハーフマラソン 8位 平井大誠(3)】

ハーフと10000mに出場しました。ハーフは、圏外から入賞できたのでよかったです。10000mの方は完全に実力不足でした。来年は両方の種目で入賞できるように頑張ります。



出場者コメント

清水和輝(M1) 今年も400mHに出場させて頂きました。院生でも部活を続けることになってから関西インカレの決勝で走る事を目指して来ましたが届きませんでした。来年は強い気持ちをもって、正真正銘最後の関西インカレで最高の走りをします。応援ありがとうございました。

早川雄己(M1) 納得のいくパフォーマンスも記録も残せませんでした。課題は明らかなので、ベスト更新に向けて練習を積みみます。応援ありがとうございました。

森山和友(M1) 100mに出場させて頂きました。森山です。今シーズンは調子が良かったのですが、関西インカレ前週に足を痛めてしまい、本番でも思うような走りが出来ませんでした。正選手に選んでもらったにも関わらず、このような結果に終わり申し訳ありませんでした。この借りは今シーズン中に10秒台で走ることや対校戦で活躍して必ず返します。

太田康介(4) 三種目に出場させて頂きましたが、どれも入賞できず、悔しい結果となりました。ここぞでの勝負弱さと実力不足が原因であると考えます。これ以降も対校戦には出場するので、しっかり勝ちきる力を備えたいと思います。応援ありがとうございました。

桂 翔太(4) 1500mと10000mに出場させて頂きました。1500mは自己ベストを更新し、決勝に進むことができました。しかし、予選で力を使い果たし、決勝は思うように走ることができませんでした。10000mは中盤まで入賞ラインでレースを進めることができましたものの、後半失速してしまいました。どちらも入賞することはできませんでしたが、全力は出し切れたと思います。ご声援ありがとうございました。

小山一志(4) 応援、サポート本当にありがとうございました。400mH、マイルリレーに出場させて頂きましたが両種目とも残念な結果に終わってしまい、申し訳なさや悔しい気持ちでいっぱいです。今できることは今回の反省を陸上以外でも生かすこと、そして次の世代に伝えることだと考えており、この経験が無駄

にしないよう頑張ります。今までありがとうございました。

木原日向(4) 最後の関西インカレでしたが、3本でうまくまとめることができませんでした。この反省を次に活かして行きたいと思います。応援ありがとうございました。

末廣真子(4) 4×100mRと走幅跳に出場させて頂きました。一走から勢いをつけたかったのですが、波に乗れず終わってしまいました。走幅跳は悔しい結果に終わりました。天候など思うところは様々ありますが、結局は全て自分の力不足でした。ですが、最後の関西インカレをしっかりと戦い抜けたと思います。応援ありがとうございました。

竹島周平(4) 決勝に進出することができず非常に残念でしたが、選手一人一人の成長を感じられる関西インカレでした。

伊藤智也(3) マイルに出させて頂きましたが、実力不足をより痛感しました。もっと強くなります。

神田 実(3) 三段跳に出場させて頂きましたが、入賞ラインに3cm届かず、不甲斐ない結果に終わってしまい申し訳ありません。しかしこれが今の実力ということを受け止め、来年は強くなってこの舞台に戻って来ます。今後とも応援よろしくお願い致します。

小西 満(3) 初めての関カレであったが緊張はせずよい雰囲気の中でベスト近く跳べたのはこれからの自信にはなったがベストを出せなかったことと入賞できなかったことは悔しい。この悔しさを糧に1年間練習に励んでいきたい。

南部 慎(3) 800mに出場させて頂きました。力を出し切れず不甲斐ない結果となりました。次こそは頑張ります。

野口ひかり(3) 怪我をして約1年が経ち、ようやく関カレに出場することができました。結果は満足いくものではありませんでしたが、メンバーみんなが次のステージにつながる走りができたと思います。応援が本当に力になりました。ありがとうございました！来年の関カレに向けての良い再スタートが切れたと思っ

ています。1年後は必ず個人種目で出場したいです。
宮崎安奈(3) 女子マイルの3走を走らせていただきました。今の自分の力は出せたと思います。ですが、目標としていた4分10秒切りもできなかったし、関西における自分たちの位置を思い知りました。今回走ったメンバーは来年もチャンスが残されているので、これから1年間準備をして、勝負に絡めるようにしていきます。応援ありがとうございました。

山口大地(3) 応援などありがとうございました。110mHに出場させていただきました。予選ではいい風が吹いていたにも関わらず、後半力んでしまいタイムも順位もいまいちに終わってしまいました。準決勝ではいろいろあってタイムも全然出せず決勝に進めなくて悔しい気持ちでいっぱいです。今回の経験を活かして来年こそ結果を残せるように精進します。

岩倉美晴(2) 4×100mRの3走を走らせていただきました。目標としていた49秒台を出すことができず、悔しい気持ちでいっぱいです。改めて走力のなさを実感したので、走力をつけれるように頑張っていきます。応援ありがとうございました。

延命勇実(2) 800mに出場させていただきました延命です。対抗選手として出させていだいたにも関わらず不甲斐ない走りをしてしまい本当に申し訳ありませんでした。この悔しさをバネに次回以降の対抗戦を頑張っていきたいです。

荻野今日子(2) 4×400mリレーの2走で出場させていただきました。もっと前半から突っ込めたことなど、反省点が多くあります。つぎの試合に繋げていきたいです。

佐長亜彩(2) マイルに出場させていただきました。悔しい結果に終わってしまいましたが、ここがスタート地点だと思って夏の対校戦や来年の関西インカレに向けて頑張ります。応援ありがとうございました。

高畑大地(2) 応援ありがとうございました、不甲斐な

い結果で申し訳ないです。一部の選手の試合を見て、同じ大学生がこれだけ投げけるのだから自分ももっといける、と思いました。来年が楽しみです、頑張ります。

松井悠真(2) 今回は初めての関西インカレで緊張しましたが、楽しかったです。来年はしっかりと結果を出せるように一年間頑張ります。

仲野由佳梨(2) 1500mと5000mに出場させていただきました。自己ベスト、大学ベストを出したいと思っていましたが、達成できず悔しいです。まだまだ力不足だということを実感させられたレースでした。ただ、関カレに出場して得られたこともたくさんあったので、それらを次につなげていきたいと思います。来年の関カレではもっと良い走りができるよう努力していきます。応援ありがとうございました。

湯浅賢(2) 出場させていただきましたありがとうございます。圧倒的な実力不足で予選落ちという結果でしたが、この舞台で自己ベストを更新できたのは最低限良かったと思います。来年この経験を活かして入賞に絡めるよう頑張ります。

臼井晴香(1) 棒高跳びに出場させていただきました。1回生の臼井です。結果は記録なしでしたが、練習を積めていない状況での結果なので満足しています。これから、この試合で見つけた自分の弱点を1つずつ克服していきます。

若江亮平(1) 目標としていた完歩を達成することができました。結果は最下位でタイムもよくなかったですが、1回生で関西インカレに出場できたことはいい経験になりました。来年の関西インカレではしっかりと戦えるように力をつけていきたいと思います。

和三はるか(1) 4×100mRの4走を走らせて頂き、良い経験をさせて頂いたので今後活かして頑張っていきたいと思います。応援ありがとうございました。

ご声援ありがとうございました！！ (敬称略)

[新 12]坂 幸夫	[新 17]椎木茂久	[新 18]平田明男	[新 21]絹田清昭	[新 21]筒井博司
[新 24]今給黎哲生	[新 34]野田俊弘	[新 37]高橋秀幸	[新 57]篠原康男	[新 63]木場陽一朗
[新 64]山下雄大	[新 64]吉田峻一	[新 65]姜俊奎	[新 65]高阪朱里	[新 65]村田一立
[新 65]藤井まりあ	[新 65]永田 遼	[新 66]秋元麻衣花	[新 66]蛭原一真	[新 66]梶谷麻友
[新 66]小泉莉穂	[新 66]谷本睦弥	[新 66]坂元亮介	[新 66]澤田将希	[新 66]瀧瀬祥良
[新 66]明瀬優香	[新 66]森下奈菜	[新 66]藤原千鶴		

2018年 関西インカレ観戦記

今年の関西インカレは、4月19日(木)(ハーフ、長居)、5月10日～13日(トラック&フィールド、西京極)で開催された。例によって出場種目に関してはすべて触れたが、適当に読み飛ばしていただければ結構です。詳しい記録、個人の感想等は速報にも詳しいので、それと合わせてお読みいただきたい。
今年の成績は男子34点(10位)、女子20.5点(12位)

新21回 絹田清昭
に終わった。男子はここ10年では最低の順位。優勝は阪大で119点、2位は大阪国際大87.5点、以上2校が昇格。以下びわこ学院大、明治国際医療大、摂南大と新興校が続き、市大が6位に躍進。短中距離、跳躍等での活躍が印象的だった。1部校常連の京都教育大が7位、又甲南大も22点で11位に沈んだ。2部の様相が大きく変わったことを印象付ける大会となっ

た。

1部は1点差で立命大が優勝。関学の8連覇を阻んだ。最終日の大雨で関学が大量点を目論んでいた棒高跳が中止になったことも大きかった。降格は大教大と天理大。女子は立命大が圧勝。2位は園田学園女子大。

OBとしては非常に残念な結果であるが、選手諸君が一番悔しい思いをしているであろう。昨年度までは、まだ1部昇格を目標としていたが、強力な4年生が卒業し戦力低下、他校の台頭もあり、今年は事前の戦力分析では9位相当と予想。1部昇格の旗は降ろさないが、少しでも上位に行くのが目標となっていた。実際は予想通り苦戦。観戦記も書きにくい結果であるが、各種目を追いかけながら後輩たちの健闘ぶりが少しでも伝わればと思う。例によってトラック競技がメインとなる。フィールド競技にはあまり足を運べなかった。ご勘弁いただきたい。

1日目(ハーフマラソン) 4月19日(木) 長居 平井が8位入賞

トラック&フィールドは今年5月10日から西京極だが、ハーフマラソンはそれに先駆けての開催。

この方式はすっかり定着した感がある。神戸からは平井(3年)、根本(3年)、矢田(2年)の3名。昨年は坂元が4位、平井が5位、桂が8位と3人が入賞して気を吐いた、今年は一段とレベルが上がり、事前予想では平井君でも入賞に届くかどうかのラインだという。当日は快晴で気温も20度を超え、観戦にはちょうどいいが選手諸君は相当暑さを感じているはずだ。このレースは1部も2部も同時スタート。

スタート直ぐ、1部の選手を中心とするトップグループと、2部のトップ、さらに2部の主力の第3グループの3つに分かれた。神大は第3グループに3人。ここが6位から15位くらいか。レースが進み、まず矢田が脱落。矢田君は2年生の期待の星だが足が伸びない。

4週目になって根本も遅れだした。平井はしぶとくついている。結局粘り切って8位を確保した(1時間10分28秒)。根本君は資格タイム見ると大健闘(1時間12分56秒、23位→12位)した。矢田君は初の大会、雰囲気にも飲まれたのか力を発揮できなかった(1時間16分43秒、19位)。3人とも駅伝では当然レギュラーになるであろう。秋の走りを期待している。

2日目(T&F 1日目) 5月10日(木)

十種競技決勝: 金澤(3年)が5位入賞

金澤(3)(資格記録5504点、6位)が出場。トラック&フィールドは例年通り、まずは10種の100mHから始まる。昨年までは吉田君と宮崎君という6000点超の強力コンビで大量点を取ってきたが、二人が卒業した今年には3年生の金澤が初出場。二人の陰に隠れてはいたが、金澤の資格記録はランク6位、立派なものだ。最初の100mは11秒4でまずまずの出足。金澤はその後110mHで自己新を出すなど5616点の自己新で5位入賞。よく頑張った。

女子1500m予選: 仲野(2)(4'46"45 33位)

仲野は市立西宮時代、3000mで9分40秒台で走っており、今や神大女子長距離陣の大黒柱だ。1500mは大学ではまだ4分40秒台だが、相手がそろえば4分30秒台も狙えるのでは、と期待していた。昨年もそうだが予選は4分40秒を切れればクリアできる。1週目トップは71秒、しかしここで4秒離れてしまった。以降もズルズルと後退。結局自己記録を更新できず4分50秒76で組10位に終わった。持久力は備わっているのですがスピード練習が足りないのかも知れない。仲野だけではないが、長距離といえども150m前後の加速走でのスピード養成が大事と思う。1500mランナーでも400m62秒くらいでは走ってほしい。そうなれば1週目70秒で入っても何とかついて行けるはずだし最期のたたき合いでも負けない。練習の工夫が必要。

400m予選: 高柳(3)(49"23 15位) 高柳、惜しくも予選落ち

参加A標準が49"00ということもあり、高柳ただ一人の出場だが寂しい。参加人数が少なく5組1着+3人というハードな予選。高柳は49"53で組2位、全体で

9位となり惜しくも予選落ち。決して悪いタイムではないが資格記録が15位ということなので自己記録は最低更新しないと難しかった。伸び盛りの時期なので48秒台突入のチャンスかとも思ったが残念だった。

400mリレーを走れるスピードもあり、次のレースで48秒が出て驚かない。明日は400m決勝と400mリレーの間が2時間しかない。災い転じて福となす、でアンカーの高柳君の爆走を期待する。

100m予選: 喜多、近藤、好記録で準決へ

喜多(2)(10"75 12位)、近藤(4)(10"84 17位)、森山(M1)(11"11 42位)

この日は追い風が結構吹き、直線レースにはいい状態。まず喜多が追風2.5mながら11秒68と好タイムで組トップでクリア。続いて近藤が追風1.9mという絶好の風をもらい何と組トップで10秒69と一挙に0"15自己記録を更新。森山君は実力を発揮できず11"73で予選落ち。どこか悪かったのだろうか? 喜多も近藤も身体が切れているようで400mリレーが楽しみになってきた。

1部100m予選: 注目の多田修平君が登場。ゴール

地点ではカメラマンの数がすごい。昨年の関西インカレで2位を0秒4も離してのレース(10秒22)が鮮烈で、観戦記に日本選手権が楽しみと書いたらその通りになってアツという間に全国区になった。

今年は桐生君が9秒98を出したレースで記録した関西学生記録10秒07を引っ提げての登場。アップの試走も他の選手とは次元の違う軽さだった。追風2.5mで50mから流しての10秒25。明日の準決・決勝が楽しみ。追風と言えば近大の滝内君が10秒21、一瞬場内がどよめいたが追風が5.3mと聞いて皆納得。それにつけても多田君人気はすごい。明日も多数報道陣が押し掛けるだろう。

女子100mH予選：和三(1) (13 “99 6位相当) 棄権

和三の記録は長田高時代の記録。国体出場の逸材。まだ調子が戻らず100mHは棄権したが400mリレーは出場した。棒高跳びの新星臼井さんと合わせ今後が楽しみだ。

110mH予選：藤原 (M1) (14 “92 13位)、山口 (15” 02 15位) 準決へ

藤原君は15秒03(追風3.9m)で3位ながら予選通過。いい風だったのでもう少し伸びてもいいはず。練習不足か？山口君は追風2.1mで14“81と好タイムで3位ながら予選通過。大幅自己新かと思ったが風が惜しかった。しかし14秒81の感触はわかった筈。今年中に公認でこのタイムを出してほしい。

女子4×100m予選：末廣(4)、武村(3)、岩倉(2)、和三(1)が出場→予選落ち

このメンバーが組めたのは何とも嬉しい。昨年度は末廣が大けがをしてリハビリということもあり、走高跳の日高まで繰り出したが、100mHの宮崎、森下がいたのでかなりのメンバーだった。今年はその宮崎、森下の実力者が抜けどうしよう？というところに、100mH13秒99の和三、棒高跳で3m50の記録を持つ臼井という新人2人が入ってきた。武村がそうであるように、2人は短距離専門ではないが、種目柄二人とも短距離は相当走れる。和三は100m12秒台、ということで今後も期待できそう。レースは末廣が1走。昨年の2月に授業の一環のスキーで大ケガをして昨年は全く走れなかったが冬季トレーニングから復活。最後のシーズンにかける思いは大きいはずだ。

レースは各自頑張ったが、やはり地力の差か、目標の50秒に届かず50秒18で組最下位だったが、全体では21チーム中16位と健闘した。決勝の8位は48秒を切っており差は大きい、是非近国体で49秒台で走ってほしい。

4×100mR予選：金丸(4)、喜多(2)、近藤(4)、高柳(3)→41秒40の好タイムで決勝へ

兵庫リレーカーニバルでは41秒69で走っており、加えて100m予選の喜多、近藤の調子を見ても予選通過は間違いないと思っていた。1走の金丸君も無難に滑り出し、最後までバトンもスムーズに流れた。

結果は41秒40の好タイム。近藤君に聞くと「こんなものではない」と手ごたえを言っていた。ちなみに予選4組では市大と阪大が大接戦。市大40秒97、阪大41秒01。予選1位は大阪国際大は40秒40で1部並。ここらとは大分差がある。41秒2~3で走ってくれば4、5位の可能性もあるのだが……。決勝を期待しよう。

それにしてもレースの度に「大会記録は神戸大学の40秒00」というアナウンスを聞くのは気分がいい。

5000m決勝：松井(2) (15 ‘56 “70 29位) 予選落ち

36人一発決勝という荒療治だが、神大は2年生1人だけの出場とはちと寂しい。駅伝は大丈夫か、と思ってしまう。エントリー数の減少は危険なサインだ。

今の部の現状を映しているのかも知れない。

松井君はランクでも最後尾の方、どういうレースをするのかな？という感じで見ていたら、後方ではあるが

集団の中にいるではないか。3000mくらいまではレースに参加していた。それから遅れだしたが、普通前半頑張るとズルズルと後退し、かえって記録が悪くなったりするものだが、後半も粘り15分44秒88の大幅自己新で22位だった。積極的な姿勢が光ったレースでこの姿勢を貫けば今後も記録更新は間違いない。駅伝の貴重な戦力になると見た。松井君の今後を期待しよう。

3日目 (T&F 2日目) 5月11日 (金)

快晴、25度、昨日より気温があがったが湿度が低い(30%台)で過ごしやすい。

この日、スタンドに着いたらハードルがバックストレッチに並べられているではないか。オカシイな、と思っていたら、今日は直線距離の競技はバックでやるとアナウンスがあった。理由は言わないが想像するに、朝からホームストレッチは向かい風が吹いているため、100mの準決・決勝に出場する多田修平君のことを慮っての措置だと推理した。思惑通り100m決勝時にいい風が吹いていればいいのだが……？

三段跳決勝 神田(3) (14m58 14位)

次期主将の神田が出場。永田、山下、瀧瀬が抜け、走幅跳・三段跳の陣容も寂しくなった。神田は記録が14m58で順位的には14位と苦しい。15m以上が6人もいるが8位が14m78。自己新を出せば8位入賞は可能。結果、記録は14m67(+1.0)で惜しくも9位で8位入賞ならず。自己記録は14m72なので大台まで28

cm。本年中に15mを是非クリアしてほしい。

砲丸投決勝 太田(4) (12m36 6位)、上野(M1)

(12m25 7位)、西村(4) (11m58 14位) そこそこの点を見込める種目だと思ったが、太田、上野がともに不調。太田は11m66で10位、上野は11m47で12位と不本意な成績に終わった。そんな中奮闘したのが西村、気合十分で自己記録を50cmも更新し12m08での8位入賞は立派。いい思い出になった。水物と言われるやり投げならいざ知らず、記録の上下が少ないと思っていた砲丸投げでも記録の上下がありうるのだと改めて認識。太田は70cm、上野は80cmも自己記録より悪い。二人とも期するところがあったはずでさぞや残念だったろう。

110mH準決勝 藤原、山口が出場

藤原(M1) 15"18(+1.4)、山口(3) 15"34(-0.7)で両名とも敗退。藤原は14秒92の記録を持ち、加えて1.4mの追風で15秒18は不本意だったろう。山口君はレース後昨日と違い身体が重く、しかも序盤でハードルにもろにぶつかりリズムを壊したと言っていた。一日違ふとこれだけ違ふ。コンディショニングも実力のうちと言われるゆえんか。今後山口君は14秒台でコンスタントに走れるはず。頑張れ。

100m準決勝：喜多(2)が出場。

予選で追い風2.5mとはいえ10秒68で走った喜多君と追風1.9mで堂々の自己新(10秒70)を出して

気を良くしている近藤君の出場。2013年には400mリレーで大会記録40秒00をたたき出した後。短距離は大きく沈み42秒を切るのもシンドかった年もあった。二人が100m準決に出ているのを見て感無量。神田君の三段跳びを中断してバックに向かう。西京極は各観客席が連絡していないので移動がとにかく大変。今のところ風は関西学連の思惑通り追風微風。1組の喜多はスタートがドンピシャで中間も鋭く伸びまさにレースを支配した感ありで10秒69でトップ通過。見事だ。通過タイムでは3位、期待が膨らむ。3組の近藤は予選時のような滑らかさがなく、もがいてゴールしたような印象。追風0.4mだが10秒93で組6位は相当不本意だったろう。

1部100m準決勝 多田君、余裕で決勝へ

1部の多田君は追風1.7mをもらいながら10秒26とイマイチ。タイムもそうだが2位以下と0秒2程度しか開いていない。昨年よりもっと圧倒的な差があった。この日は決勝の後400mリレーもある。まさか加減しているのかどうかだが、超人的な走りを期待しているカメラの列も少し期待外れだったように思えた。

1500m予選：藤田 (M1) (3'59"15 5位)、桂 (4) (4'4"43 20位)、湯浅 (2) (4'9"67 30位)

藤田は余裕の2位で通過。いつものクレバーな省エネレース。2年の湯浅君は初めての舞台で緊張しただろうが自己新(4分8秒24)は立派。うまくレースを組み立てていたように感じる。今後は前のグループで勝負してみるとか、自分の殻を破るようなレースもしてみたらどうか？今年中に4分5秒切りに挑戦だ。特筆すべきは桂。就活で忙しく、しかも1500mと1万mという奇怪な？エントリーで大丈夫かと思っていたら上位で粘りに粘り、最後に持ち味のスパート力まで披露して何と3分59秒26。5秒近く自己記録を更新して組3位の通過は立派の一言。エネルギーをすべて放出してしまったのではないかと心配させるような激走だった。3時間半後の決勝に余力があるか心配だが3分台ランナーの誕生はあっぱれ。

100m決勝 喜多、惜しくも7位

喜多君のみの出場となったが、準決の様子でひよっとしたら表彰台もありうるか、と期待していた。しかしながらタイムは10秒70とまずまずだが流石に強豪ぞろいで僅差の7位に終わった。喜多君は昨年後半から頭角を表したが一段と強くなった印象。優勝は大阪国際大の石田君で10秒52。2、3位も10秒5台。来年は10秒5台で表彰状に上がってほしい。しかし母校の選手が陸上の花100mの決勝に残るのはなんとも気分がいいものだ。

1部100m決勝 多田君、4連覇もタイム平凡

多田君目当てにワンサカと報道陣が押し掛けたわけだが、残念ながら記録も内容も圧倒的とはいかなかった。学連は「付度」したのか、走路をバックに変更し準決までは功を奏していて2部の決勝も追風。しかし肝心の1部の決勝の時だけ向かい風1.5m、関

係者は「あっちゃー」という感じだったろう。しかしながら向かい風1.5mでも昨年の大会記録10秒22は破ってほしかったので、ミーハー的にはどういいうわけか不満が残る。10秒30で2位を0秒2離して4連覇したにも関わらず、本人も周囲も満足しないほどの存在とはどういう存在か？スターは辛い。来年から多田君の走りが見られないと思うと寂しい限りだ。

女子400m決勝 新人の川田、53秒50で快勝

今の関西のスターは多田修平君であるが、同学年で入学時に騒がれたのは青山聖佳さん、52秒台でインターハイを制しての大阪成蹊大入学で、丹野麻美さんの51秒台の日本記録を破るのは彼女だと言われてきた。しかしながら昨年从不調に陥り今大会でも精彩を欠く。そこへ登場したのが400m、800mの川田朱夏さん(東大阪敬愛高→東大阪大)と800mの塩見綾乃さん(京都文教高→立命館大)で昨夏のインターハイ800mでは、2分2秒57の高校新記録で胸一つ塩見さんが川田さんを破った。今女子800mは北村夢さん(日体大→エディオン)が2分00秒92の日本学生記録保持者、杉森美保さんの2分00秒45の日本記録と夢の1分台に迫っており、5月20日のセイコーグランプリで1分台が出るかが注目されている。その北村さんに迫ろうとしているのがこの塩見さんと川田さん。川田さんはインターハイでは400mに勝っており、400mでも青山さんの後継と目されている。当面この二人が関西の大学陸上を引っ張る存在だろう。好きなウンチクを書いてしまったが、やはりレースは川田さんが最初からぶっちぎり、53秒50の好タイムで2位を1秒以上離しての快勝だった。最終日の800mでの塩見さん、川田さんの対決が本当に楽しみだ。

1500m決勝 藤田、桂が出場。藤田は余裕の4分2秒で通過。桂は大幅自己新の3分59秒での通過。桂は全エネルギーを放出したようにも見えたので、余力がどれほど残されているか気になった。しかしながら20歳という年齢は疲れの回復も早い。本人は結構やる気でもう1本3分台で、くらいの気持ちだった。しかし心とは裏腹に体が全くいうことを聞かなかつたらしい。レースは最初の1週目63秒でいいペース。藤田は先頭集団の中にいるが、桂は1週目から最後尾。2週目に入ると京教大の三上君がスパート、独走状態に入った。三上君の資格タイムは4分3秒、記録で見ると限り下馬評にも上がらない存在だったが勢い衰えずぶっちぎって2位以下を3秒離しての圧勝だった。もともと強い選手だったのかも。2位以下は3人が混戦。藤田もその中にいたが結局最後のスパート力に差があり4位に沈んだ。資格タイムの順位からしても妥当なところではあるかも知れないが、1500mランナーとしては400mを51秒台で走るくらいのスピードはいるのかも知れない。しかし一本刺激が入ったので最終日の3000m障害が楽しみだ。桂は4分17秒で最下位。お疲れ様。

女子走高跳決勝 日高 (3) (1m72 6位) 6位

日高は1年時から活躍。学内記録を更新し続けており1m72まで記録を伸ばしている。もう少しで全カレで

もベスト8に入るところまで来ている。そんな期待の日高だったが今回は精彩を欠き、1m65の不本意な記録で6位に終わった。1m72を跳べば3位だったが致し方なし。ランキングは6位なのでまあまあという言い方もあるが、順位よりなにより本人は自己記録を7cmも下回ってしまった自分が許せないだろう。日高はさっぱりと来年への出直しを誓っているが、今シーズンはまだまだ長い。自己記録更新に向けて頑張ってもらいたい。

4×100mリレー 41秒69で7位

予選で41秒40の好タイムで通過した神戸のオーダーは予選と同じ金丸(3)、喜多(2)、近藤(4)、高柳(3)。近藤君が言っていたように、喜多、近藤の調子も良く、高柳も400mを1本しか走っていないのでバネは残っているはず。大阪国際大、市大、阪大が3強と目される中どれだけ戦えるか期待していた。レースは前評判通り大阪国際大がトップで市大、摂南大が追う展開。阪大は意外と伸びない。神戸は4~6位の中にいる。3走ではやはり近藤は強い。4位争いもできるタイミングでバトンゾーンに入ったが、高柳の出るタイミングがわずかに早く、間延びしたバトンパスになってしまい予選より大きくタイムを落として7位に終わった。しかし前にも書いたが2年前の42秒も切るのがギリギリの状態から、状態が良ければ41秒1~2で走れるチームになったのは嬉しい。1位は大阪国際大の40秒69。摂南大が40秒87で2位、市大は40秒89で惜しくも3位は立派。兵庫県立大が41秒07で4位に入った。マイルも強く今大会での短距離の躍進ぶりが印象的。

1部4×100mリレー 関学が関西学生記録(39秒11)に迫る39秒14で優勝

4連覇したものの、多田君本人自身が失敗レースと認めている100m決勝から3時間後の本レース、関学は予選を多田君を温存して40秒10で2位。予選1位は昨年からめっぽう強い近大の39秒65。全く昨年と同じ展開だ。アンカーに渡った時点で近大が前にいけば多田君の爆走が見られるかも、と少し不謹慎な期待もしながらスタートを待った。レースは予想通り関学、近大が先行。最後のバトンパスでは近大が先にバトンもらった。近大、関学の差は2~3mか。まさに期待通りの展開で怖くなる。多田君の追撃が始まった。40m付近でトップギヤに入ると流石にスピードが違う、70m付近で抜き去って最後は逆に2~3mの差をつけて完勝した。漸く昨年の好調時の多田君の走りを見た思いがした。本人もほっとしているのではないかな。関学39秒14、近大39秒42。立命39秒79と3位までが39秒台。見ごたえのある好レースだった。

トラック&フィールドの2日目が終わった。目玉の多田修平君の100m、400mリレーも終わり明日からは報道陣もほとんど来ない、いつもの静かな大会に戻る事だろう。しかしながら多田君のようなスター選手の登場は普段陸上とは縁のない人まで競技場に足を向けさせる。事実何人か多田君を見に来たという町の

おじさんという方に出会った。そういう女性もいたかも知れない。元神戸新聞の力武氏が、多田君が10人くらいいてくれたら関西もなあ、と嘆息されていた。新たなスター登場が待たれる。

2部は、阪大の黄色のユニフォームが目立つが、大阪国際大、びわこ学院大。明治国際医療大、摂南大、大阪市大などが気を吐いている。特に大阪市大の400mリレー3位は立派で、後半はさらに強いマイルが待っている。一方、かつての1部校、京都教育大、神戸大、さらには甲南大などが元気がない。あと二日だ。

4日目(T&F 3日目)5月12日(土)

この日も快晴、26度、湿度39%とアナウンスがあった。明日は雨とのことで湿度が少し上がり気味だが上々のコンディションだ。

女子三段跳決勝 武村(3)(12m61 3位) 2位

次期女子主将の武村の登場である。女子に三段跳の武村、走高跳の日高と全国級の逸材が入って2年。彼女たちももう3年で幹部の学年になった。時の経つのは本当に早い。年寄りも十年一日の毎日を送っているが学生たちはそうではない。入ったと思ったらすぐ幹部になって就活して卒業だ。などと年寄りの世迷いごとを言っているけど仕方がないので競技場に戻ろう。武村は既に日本選手権のA標準も突破しており、日本インカレでの表彰台を狙うところまで来ている。

この日は母校の京都・西京高校から陸上部の恩師も応援に来てくれていて、グラウンドとスタンドで言葉を交わしていた。卒業後も続く師弟間の信頼関係、いい光景だった。武村も心強かっただろう。

2m前後の追風が吹いており好記録も期待された。途中武村は12m67(+1.9)の大会新でトップに立ったが、6跳目、関大の12m11しか記録がない選手が追風3.9mをもらい、なんと12m72と自己記録を61cmも上回るジャンプで大逆転。武村は2位になった。最後、再逆転を狙ってのジャンプは助走も鋭く体も良く浮いたと思ったが惜しくもファウルで万事休す。武村個人としては、多少踏切の手前で踏み切ったことも多かったが調子は良かったはずだ。勝負は水物というがランキング10位にも入っていない選手の優勝を演出したのは気まぐれな風だった。しかし大会新でボーナス得点5点を加え、この種目だけで12点を稼ぎ20点の得点目標に力強く前進した。まずは6月の個人選手権での13mジャンプを期待したい。

200m予選 近藤(4)(21"95 21位)、喜多(2)(22"58 37位) →喜多は準決へ

2部の200mはランキング8位で21秒62。二人のタイムでは決勝進出は難しい状況。しかし100mを見る限り調子はいい。しかし近藤は後半伸びず22秒15(-0.5)組4位で予選敗退。近藤は100mの調子から期待していたし、本人もそう思っていたはずだが???大学院に進んでも競技は続けることなので、今後を期待しよう。

喜多は組3位なるも21秒94の自己新でかろうじてプラス6に拾われ準決へ。100mの記録からして喜多の

21 秒台は当然。200m の力がつけば課題の 100m の後半にも効いてくるはずだ。進化の過程だろう。

400mH 予選 藤原 (M1) (53"45 8 位)、清水 (M1) (54"72 14 位)、小山 (4) (55"23 16 位)

藤原はもともと 110mH が専門だったが 400mH に距離を伸ばしてきた。こちらの方が戦えているイメージ。清水は 3 年時にすでに 54 秒台で走っていたはずだがその後伸び悩んでいる。こころで 53 秒台に突入したいところ。

1 組の清水はスムーズに流れに乗ったかに見えたが、最後の直線が伸びない。54 秒 33 で組 4 位に終わった。資格記録は更新しているので悪い走りではないのだが・・・組順というものもある。対照的に藤原は組運に恵まれたか、54 秒 37 なるも組トップで見事決勝へ。チャンスをものにしたという言い方もある。最終組の小山は 55 秒 17 の自己新なるも組 5 位で予選落ち。プラスは 53 秒台とレベルが高かった。

800m 予選 植田 (M2) (1'49"10 1 位) 南部 (3) (1'53"78 9 位) 延命 (2) (1'56"12 24 位)

いよいよ 3 連覇中の植田君の登場である。今回の関西インカレのプログラムを手にとって驚いた。多田修平君が大写しになっているのは当然だが、他に 4 人映っているがその一人がなんと植田君。KOBE のユニフォームがプログラムに載るとはすごいこと。快挙である。彼は昨年秋の甲南大学での記録会で手動ではあるが 1 分 49 秒 1 で学内記録を更新。神大で初めて 800m で 1 分 50 秒を切ったランナーとなった。

当然今回は 4 連覇を阻止せんと各大学は向かってくるであろう。就活で練習が十分できているか気がかりだがそこは百戦錬磨の植田君のこと、見事最後を飾るものと確信している。

1 組目、植田は楽に走り 1 分 54 秒 41 で準決へ。2 組目、南部。1 分 55 秒 76 で 4 位なるもプラスで準決へ。本人としてはイマイチかもしれないがよく粘った。この粘りが大事。とにかく上のステージへいくことだ。4 組目、延命は最初から勝負できず後方待機で 2 分 1 秒 91 と不本意な結果。もう少し前で勝負した方がいいように思う。先頭に立て、と言っているのではない。中位より前でレースを進めることを経験した方が仮に最後ばててしまっても得るものは大きいと思う。勇気を出して前で勝負だ！

円盤投決勝 上野 (M1) (41m08 3 位) 高畑(2) (37m30 9 位) 太田 (4) (35m57 13 位)

砲丸と同じく 3 人がエントリー。ランキング 1 位は 43m、4 位は 38m なので上野の 3 位は安泰のように見えるがさて？ 結果、混戦の中、上野が 39m63 で 3 位、太田が 34m01 で 11 位、高畑が 33m35 で 15 位。優勝が 40m20 なので、直接投擲を見ていないが風向きが悪いとかで軒並み記録が下がっているようだ。8 位が 35m48 まで下がったので 37m30 の高畑にはチャンスだったはずだが、それ以上に記録を下げてしまった。残念。高畑は投擲の希望の星だ。今回は力を出せなかったが、今後の対抗戦、是非頑張ってもらいたい。

200m 準決勝

自己新で準決に進んだ喜多だが、準決となると分が悪

い。再度 21 秒台で走れるか、というところだったが、向かい風 1.8m が小柄な喜多には効いたのか 22 秒 41 で最下位に沈んだ。もう少し粘ってほしかったがこの辺りが今後の課題かも。三商戦ではリレーは 4×200m だ。市大は強力だが今回のレースはいい練習になった筈。100m で優勝してリレーでは食い下がってほしい。

女子 4×400m リレー予選 佐長 (2)、萩野 (2)、宮崎 (3)、野口 (3) が出場。

4 分 14 秒 99 で予選最下位。よくぞチームが組めたというところ。今後は全員記録会に食欲に出場し、レース経験を積み、個々の走力を向上させるしかない。成長を見守りたい。

4×400m リレー予選 小山 (4)、高柳 (3)、伊藤 (3)、竹島 (4) が出場

18 チームが出場。3 組 2 着 + 2。条件は厳しい。3 分 15 秒が予選着順通過の目安か？

昨年のチームから植田 (48 秒 25) が 800m レースとの兼ね合いで抜けざるを得ず、50 秒を切るのが高柳一人と戦力低下は否めない。他の 3 人がどこまで底上げされているか？というところ。3 組に出場の神大は途中良く踏ん張り、アンカーまで 3 位で予選通過に望みをつないだが、ゴール直前に摂南大に逆転され 4 位に転落。タイムは 3 分 17 秒 99 で全体で 9 位となり予選落ち。摂南大を食っていれば決勝だった。結果としてアンカーがもう少し頑張っていれば、というように見えるが、実際はこのメンバーでよくギリギリの勝負に持ち込んだな、というところ。平均では 50 秒をわずかに切っているのに、400m の自己記録から見ると良く走ったのではないか？高柳には 48 秒台のエースに育ててほしいし、他の 3 人も最低 50 秒台で走れるようになってほしい。1 人でも多くの 49 秒台ランナーが育つのを期待する。やはり最終日マイルリレーを応援できないのは寂しい。

棒高跳決勝 早川 (M1) (3m80 11 位) →10 位

早川は吉田 (4m20)、宮崎 (4m00) の次ぐ部内 3 位で 2 年前は確かまだ 3m40 くらいではなかったか、と思うがじわじわと記録を上げ、ランキングでも 11 位、あわよくば入賞というところまで来た苦労人だ。吉田もそうだったが「シツコク陸上をする」といういい意味での陸上バカなのだろう。結果は 9 位と同記録の 3m80 の自己タイで 10 位だった。8 位が 4m なのでやはり目標？の 4m をクリアする必要があった。まだ続けるかどうかは知らないが何とか 4m を越えて卒業してほしいものだ、と勝手に応援している。

800m 準決勝 植田は余裕で決勝へ

1 組、植田は余裕を感じさせるレースぶりで市大の矢守君と並走してゴール。4 連覇への期待が高まる。

2 組、さすがに南部にはきつかったか、1 分 57 秒 25 で組 6 位。もう少し前で勝負できなかったか？4 位が 1 分 56 秒 47 なので決して届かないタイムではない。1 分 53 秒台の自己記録を持つ南部君なら可能な領域。もう少しいろいろなパターンを経験を積みとレースが練れてくるはず。食欲にレースに出てほしい。

2 組トップの市大の上田君の切れ味が素晴らしい。

昨年は惜しくも 2 位。捲土重来を誓っているだろう。決勝は植田と市大 2 人の争いと見た。

女子 5000m 決勝 仲野 (2) (17'37"11 37 位)。ランキング 8 位が 16 分 13 秒とさすがに関西の女子長距離のレベルは半端ではない。駅伝などを考えると仲野は少なくとも 16 分台では走ってほしい。本人もレース後のコメントで言っているようにこういうレースは自己記録を更新するチャンスでもある。高校時代から記録の出し方も心得ているであろう仲野には期するところがあったはずだ。レースは立命、大阪学院などの強豪が引っ張るがそれほど早いペースではない。しかし中段につけない。1500m でも感じたがどうも体の切れがイマイチのように感じた。結果 17 分 51 秒 99 (29 位) と不本意な結果に終わった。ついて行つてつぶれたなら納得もできるが、そういうこともなく、なんとなくレースが終わってしまった、頑張れなかった、という思いが強いのではないか？

周囲に強い選手もいないので練習で追い込むのもシンドイかも知れないが、工夫して自分に負荷をどうかけるかを追求してほしい。9 月の女子駅伝では一皮むけた走りを期待している。

10000m 決勝 桂 (4) (31'41"62 13 位) 平井 (3) (32'07"74 22 位) →入賞ならず

桂は 1500m×2、平井はハーフの疲れが取れているかがポイント。気温も高く、それほどタイムが上がらないであろうから、体調さえ良ければ二人とも入賞のチャンスがあると見た。レースが始まってすぐ 1 周も行かないうちに平井が遅れだした。列の最後尾にもつけない。そのままマイペースで前を食いながらゴール。32 分 39 秒 56 (14 位)。聞くところによるとハーフのダメージが本人の予想以上に大きく体が動かなかった由。もともと後ろからイーブンペースで前を食っていくレーススタイルだがハーフの時は 10 位前後の集団をキープしていた。それができないほどダメージが大きかったということだろう。しかしランキングから見ると 14 位は悪くない。気温が高くどの選手もタイムを落とす中、確かに見栄えは良くなかったが自分を貫きクレバーなレースをして良く走ったと評価すべきだろう。

一方、桂は 8 位前後をずっとキープしてトップグループにくらいついた。1500m の疲れもある程度取れているのだろうか？ 後はどれだけ量の練習が積めているかどうか？ 1500m で切れ味を見せたので余計気になる。そう心配して見ていたが、なんと 8000m まで 8 位前後をキープ。さすがに残り 2000m は苦しい走りになり順位を落とし 32 分 16"80 で 12 位に終わった。まさに刀折れ矢つき、という印象。ランキングには 29 分台もいたがトップは 31 分 15 秒、8 位が 31 分 59 秒とやはり夕方でも 20 度を超す暑さで軒並みタイムを落としサバイバルレースの様相もあった。桂はこの種目に絞っておれば入賞のチャンスはあったように思う。しかし本人はどちらかを取れと言われたら、1500m の 3 分台の方法を取るだろうと勝手に想像している。

トラック&フィールドの 3 日目が終わった。得点はま

だ 20 点をやっを超えた程度。最終日には植田の 800m と藤田の 3000mSC を残しているが、二人が優勝しても 37 点くらいか、戦前の予想通りなのが寂しい。

5 日目 (T&F 4 日目) 5 月 13 日 (日)

この日は予想されてはいたことだが朝から雨。途中強雨になり 1 部の棒高跳が中止になったり、女子の走幅跳がピット変更のため、開始時間が大幅に遅れるなど競技に大きな影響が出た。

そんな中、椎木会長と昔話をしていた。椎木会長が 3 年生時 (1967 年) の三商戦は神戸大水害の当日であり、100 年史にも依田さんや杉澤さんが詳しく書かれているのでご参照いただきたいが、19 回の筒井恵三さんが国維寮への帰りの坂道で濁流と化した道で転びバッグをマンホールに流してしまった話とかいろいろ怖い話がある。昼間から大雨で王子競技場は泥田と化しコースも見えない中で競技をしたとのこと。それこそ棒高などはどうしたのだろう？ と思って 100 年史を紐解くとちゃんと記録が載っている。朝の内でも何とか出来たのかもしれない。棒高跳中止のアナウンスを聞きながらそんな話をしていた。観客そのものが少ないわけだが、長居に比べて屋根のあるスペースが極端に狭く、皆体を寄せ合うように屋根の下にひしめいていた。そんな中、選手たちは傘を差し、100 円のカップを着ながらの応援である。

考えてみると陸上競技も結構野蛮だ。前置きが長くなったが、まずは時間のかかる 1 万 m 競歩から競技開始だ。

女子 1 万 m 競歩 福田、大幅自己新で 6 位入賞

福田 (3) (53'09"56 8 位) が出場。昨年の関西インカレで彗星のように現れ 8 位に入賞したのが記憶に新しいが、今年は三商大戦の担当にもなり 7 月 21 日に向けて汗をかいてくれている。

小雨が降りしきる中 14 人がスタート。同大と同志社女子が先頭を引っ張る。福田は中盤で堅実に歩いている。そのうち周回遅れがどんどん出てきて、雨が視界を遮ることもあり、かろうじて先頭がわかる位の状態になった。これがカオス (混沌) ということかと去年も思ったが、ハーフのようにロードでやってくれたらいいのに、と又思った。昔実業団陸上で 2 万 m というのがあった。トラック 50 周。約 1 時間かかるレースだがさぞや見ている方も疲れたであろう。

トップがあと 1 週とのアナウンスがあり、同志社の杉山さん (3) が 48 分 05 秒でゴール。好タイムだと思ってプログラムを見ると、日本記録は 43 分 01 秒。大会記録は昨年の 45 分 56 秒。上には上がある訳だが競歩の記録カンがないので混乱する。市大が 3 位で 49 分 32 秒。福田は後半追い上げて 51 分 25 秒 55 で堂々の 6 位。日本選手権の参加標準を破った。天晴れ！

1 万 m 競歩 若江は最下位に終わる

若江 (1) (5000m□ 23'43"61) が出場。続いて男子である。若江は 1 年生でいきなりの出場。高校時代は 5000m 競歩をやっていたらしい。倍したら 50 分を切るわけでそうならばたいしたもの。そうは上手くないかないのが世の中で、多分受験勉強の影響

で「歩き込み」もできていなかったのであろう、53分45秒53で9人中最下位に終わった。優勝は43分台。しかし競歩はそもそも競技人口が少ないので少し頑張れば入賞。しかし表彰台に上がるには45分の力が必要だ。最近では競歩も脚光を浴びてきて陸上雑誌などでも練習方法が公になってきている。地味な競技ではあるが、大いに研究・研鑽し神大競歩史に名を残してほしい。

やり投決勝 上野、太田 入賞ならず

上野 (M1) (57m78 9位) 太田 (4) (56m64 11位)
雨の中のやり投げとはどんなものだろうか？少なくとも雨粒の分だけ抵抗が増えるので記録が悪くなるのは避けられないとは思える。ゴルフの話で恐縮だが、つい雨の中では振り急いでしまう。上手な人は悪天候でも崩れない。動作をゆったり確実にやるようにしているらしい。こういう悪天候の中ではより基本的な動作を確実にやるのが求められているはずだ。日ごろから雨天での投擲練習などほとんどしていないはずだが、もし少しでもやっていたらこういう日には差がつく可能性もある。工夫は無限だ。

結果は太田が49m41で17人中11位、上野は48m42で12位に終わった。1位～3位を明治国際医療大学が占め優勝記録は61m88、3位でも59mを投げ4位を4m離している。神戸の二人は資格記録から7～9m記録を落としたが、1位は65m→61m、8位の摂南大の選手は53m→50mと落ち込みを最低限にとどめている。この辺りに何か示唆はないか、個人もそうだが部として伝えることがありそうな気がする。分析も合わせてしてほしい。

400mH 決勝 藤原が7位

藤原は「運で決勝に出られた」と言っているが少なくとも組トップになっているので胸を張っていい。結果は54秒31で7位。ランキングでは8位だったので健闘したと言える。ベストを出していれば5位。藤原もシツコイ陸上の「究め人」的なところがある。もう少し追求して見ますか？

女子800m 決勝 東大阪大 川田が大会新

400mのところで紹介した東大阪大の川田さんと立命館大の塩見さんの超高校級二人の一騎打ち。予選からこの二人は「モノが違う」ところを見せつけて決勝を迎えた。5月の大会では川田が故障上がりとはいえ第一人者の北村を2分2秒台の自己新で下している。果たしてレースは今年のインターハイとは逆に塩見が先行。一周60秒で通過。昨年までのレースと3～4秒速い。バックで川田が塩見に並びかけ残り150mでは400mのスピードに勝る川田が逃げ切った。1位川田2分6秒64の大会新、2位塩見が2分7秒75と、雨も強くなっており、彼女たちには不本意な記録だったが3位は2分12秒台。いかにこの二人がかけ離れているかだ。セイコーグランプリ陸上で北村夢さんを交えた800mの対決が注目される。

800m 決勝 植田4連覇ならず

いよいよ植田の4連覇なるか、の時が来た。1周54

秒で通過。かなりいいペースだ。植田は例によってトップから2, 3番手のアウトの指定席を確保。必勝態勢に見えた。市大の上田君、矢守君はどういうわけか後方待機。1周目が少し早いと思っているのかも知れない。バックで市大勢が4, 5番手に上がる。残り200mから植田が仕掛けようとしたがどういうわけか切り替えがうまく行かず抜け出せない。混戦のまま残り120m。コーナー手前で2番手まで上がってきていた上田君がスパート、見事な切れ味で快勝した。タイムはこの強雨の中、1分51秒89。同じ市大の亀坂さんが2013年に記録した1分51秒21に迫る好記録だった。植田君は1分53秒90で5位に沈んだ。想像するに前日の準決までは好調のように見えたが、実は「やっと関西インカレに間に合った」らしい。就活もあり昨年までのような練習が積めていなかったため、スタミナ切れを起こした、というところか。しかし彼の3連覇が色褪せることはない。神大陸上部の歴史に語り伝えられる名選手だと言える。全カレでの復活を言っているので再度の1分49秒台を期待している。

走高跳決勝 小西、1m85で惜しくも10位

走高跳を6年間支えてくれた佐野君が卒業し、その後継者が小西(3)(1m90、18位)だ。風雨も強くなってきた中、選手たちは苦戦している。結局優勝は3人のジャンプオフで決まったが、指定の高さを全員が越えられず、2回も高さを下げての決着となった。記録は2m00。ランキング1位が2m13、8位でも2m04だったので、いかに雨の影響があったかがわかる。8位の記録が1m90だった。そんな中、小西は5cmの落ち込みにとどめ、ランキング的には18位→10位とあと一歩で入賞のところまで頑張った。良くやった。

3000mSC 決勝 藤田、惜しくも2位

藤田は2年前のチャンピオン。その年9分09秒まで記録を伸ばし、秋には5000mで14分40秒台、駅伝では1区で6位と快走、神大を9位へと大きく躍進させた立役者となった。来年へ期するところが大きかったのは良く伝わってきたが「好事魔多し」とよく言うが、冬季トレーニングでの走り込みで故障。これが長引き半年を棒に振る。結局駅伝も回避せざるを得ない1年となった。そうはいっても秋にはかなり走れていた今年には慎重に冬季トレーニングに取り組んだはず。本人の口ぶりからも調子はほぼ2年前に近づいたように感じている。記録も9分11秒まで戻しておりランキング的にもほぼ同記録の2位。ランキング1位の大阪経済大、甲南大の小田原君が対抗馬かと見ていた。

雨の中レースが始まった。いきなりびわ学大が飛び出した。ペースが速い。藤田は4, 5番手。ところが一周目水郷の手前のハードルを越えた時に他校と接触があり態勢を崩したため大きく先頭と開いた。差は10m。こちらは一瞬焦ったがクレバーな藤田のことだから、もう一度レースを組み立てなおす筈と思っていた。案の定というか決して焦らず3周ほどかけてトップグループに追いつき、2000mでは3番手に上がった。びわ学大が先頭で、藤田、大阪経済大、阪大が続く。気にしていた甲南大は少し遅れている。阪大

が遅れると思えば又つくということで不思議な感じはしていた。残り2周になり藤田が前へ。びわ学は伸びない、と思っていたら阪大がするすると前へ詰め藤田を追走。残り1周、藤田と阪大の榎山のマッチレースになった。2年前はこれと逆で先行する阪大の吉田君を藤田が最後に抜き去ったわけだが、今回は逆の展開。藤田もスパートに入るが阪大もびったり離れない。残り230mから阪大がスパート、藤田をかわす。阪大、藤田の順で水濠を越えた。差は2m。さらに阪大が加速。藤田も粘るが差は縮まらない。そのままゴール。阪大の榎山君が9分11秒36と自己記録9分21秒を10秒更新。藤田は9分12秒06で0秒7差の2位だった。榎山君は3年で伸び盛り。調べてみるとハーフ、10000m、5000mと出場。持久力は相当の選手だが最後のスパートを見ていると中距離のセンスも感じる。2年前の吉田君もそうだが、10000mの選手が3000mSCもこなすという意味では卒業した坂元君を思い出す。序盤での接触での遅れは影響しただろうが、今回は榎山君を誉めるしかない。しかし藤田はまだまだ戦闘意欲旺盛で日本インカレの標準を切ることが目標と言っている。日本インカレの標準は9分1秒。これを切るということは学内記録の8分59秒も視野に入っているということだ。4年前に初めて藤田のレースを見てそのセンスの良さに気が付き、種目も同じなので応援してきた。是非大きな花を咲かせてほしい。

女子走幅跳 武村 (5m72 8位) 末廣 (5m48)

先にも述べたが、正面ピットが強雨のためぬかるんで泥田のようになり、着地点がわからないのでまだまじなバックスタンドのピットに移動。このため競技開始が大幅に遅れマイルリレーが終わってもまだ競技が続いているという事態となった。普段は応援が分散するものだが、出場選手がいる大学はバックスタンドへ集結。傘の花畑の様相を呈した。強雨の中、選手たちは本当に気の毒な状況。

そんな中3本跳んで武村はベスト8にいるが、末廣は惜しくも3cm足らず5m39で9位でベスト8に進めなかった。末廣はケガから復帰して半年、残念ではあるが、4×100mリレーの1走も務めたし、こうやって自分の専門種目のピットに立てた。よく頑張った。まだ試合は残っているので心残りのないジャンプを連発してほしい。

武村は5m65で6位にとどまった。本人は不満だろうが雨の中どの選手も20~30cm記録を落としている中立派な記録と順位だ。総じて今大会、武村は助走が良く走っていた印象。上り調子なのは間違いない。その調子で大きな大会に挑んでほしい。

4×400mリレー 市大が逆転で優勝

市大が阪大を振り切り優勝。このレースに神大は出ていないが、面白いレースであり、ライバルの市大の躍進を象徴するようなレースでもあったので紹介する。ランキング的には市大、阪大、明治国際医療大（以下

明医大）、大阪国際大で3分11秒から13秒。

その中でも市大、阪大が頭一つ抜けているような感じだが僅差。市大はアンカー小林君が1年時に優勝した200mで4位に沈み本調子ではないようなのが懸念材料。あとで市大OB会の亀井会長から、小林君は故障明けでかろうじて間に合ったとお聞きし納得した。レースは市大、阪大、明医大の3校の三つ巴で目まぐるしく順位が変わる息詰まる展開の好レース。団子でアンカーにバトンがわたるが、阪大、市大、明医大の順、と明医大のアンカーが猛然とスパート。バックで2校をかわしトップへ躍り出る。すごいスピードだ。阪大、市大はびったりと追走。最後のカーブを曲がりあと100m。ここで明医大の足がとまる。阪大が抜きにかかり、さらに外から市大の小林君が最後のエンジンに点火。残り50mで3校が並ぶがそこから小林君が抜け出した。最後は1.5m差で市大優勝。横で市大OB会の安藤副会長。宇治事務局長が歓喜して飛び跳ねておられた。おめでとうを申し上げたい。

(総括)

2部の得点だが、1位は予想通り阪大が圧勝。2位はなんと大阪国際大。以下びわこ学院大、明治国際医療大、摂南大と新興校が続く、市大が6位に躍進。神戸は10位、甲南も11位に沈んだ。先にも書いたが大きく勢力地図が塗り替えられた大会となった。

例えば明治国際医療大はハンマー投げ、やり投げで1, 2, 3位を独占。円盤投も1, 2位。この3種目で57点を稼いでいる。今年は短距離も強くなった。強化方針のもと特別なスカウティングをしているのは間違いないだろう。大阪国際大も同様。

私たちが同じことをできるはずもないが、自分たちの戦績だけからの単なる敗因分析ではなく、これからの予想も含め状況分析をして今後の戦い方を議論していくことが大事であろう。幹部諸君は自分たちだけで責任を背負い込むのではなく、情報を集めた上で、新幹部や卒業生も含めいろいろな意見を聞きながら、今後の部運営に思いを馳せていただきたい。

総会での報告を楽しみにしている。

女子はまさに少数精鋭という戦い方で、種目は限定されるが一定の存在感は示せた。これからは途中で紹介した100mH、棒高跳びも力強く戦列に加わりず、同時にリレーも向上するはず。近国体が楽しみだ。今回は西京極だったがやはり不便。来年は是非長居でお願いしたいものだ。先輩方も是非競技場に足を運んで、現場の良さを再確認してほしい。

特に卒業から間がない若手の先輩方は是非。

長々と書いたが最後までお付き合いいただき深謝。

以上